

まつやま中学生海外派遣2026

韓国班

2026.7.23～7.29

韓国班 日程表

月日	行程
7月23日(木)	松山空港発 仁川空港着
7月24日(金)	韓国語講座 民族衣装試着 市場見学
7月25日(土)	自然循環教育 伝統楽器体験 ホストファミリー対面式
7月26日(日)	ホストファミリーと過ごす
7月27日(月)	ホストファミリーと過ごす ソウル市へ移動
7月28日(火)	パジュDMZツアー ソウルタワー ハイカーグラウンド（韓国観光広報館）
7月29日(水)	仁川空港発 松山空港着



『市内交通』

韓国では、街中のいたるところにキックボードやシェアサイクルの基地があり、多くの人が自転車や電動キックボードを利用して移動していました。街中での移動が便利であり、公共交通（シェア型移動手段）を利用して様々な場所に移動できます。公共交通を使いやすい環境で人に良い取組だと思います。

『ごみ処理施設』



ピョンテク市のごみ処理施設では、ごみの分別の大切さを学びました。ただ処理するのではなく、エネルギーを地域に還元する取組は松山市でもみられます。しかし、その取り組みを大規模に出来ているのがピョンテク市だと思います。嫌なものとセットでよいものをつくる取組の認知が広まり、大々的に宣伝できるようになってほしいと思います。

『ソウルメトロ』



韓国の地下鉄では、自転車と一緒に乗ることができる車両がありました。電車だけでは行けないところに行ける、辛い所に手が届くサービスだと思います。日本でもサイクルトレインがありますが、都市鉄道にはないので、都市の中でのサイクルトレインが普及してほしいです。



『交通カード』

韓国の交通カードです。韓国では使い捨ての切符はなく、交通カードを購入して乗車する形でした。一回用のカードは、返却すると500ウォン返ってきます。いま、日本では切符を二次元コードにしていると言っていますが、リサイクルありきではなくそもそも捨てない形にする交通がエコだと思います。



『DMZツアー』

DMZツアーでは、韓国と北朝鮮の歴史について詳しく知ることができました。特に、昔は韓国と北朝鮮が友好的な関係だった時代があったことを知り、とても驚きました。意外と韓国と北朝鮮には長い歴史があったことを実感しました。



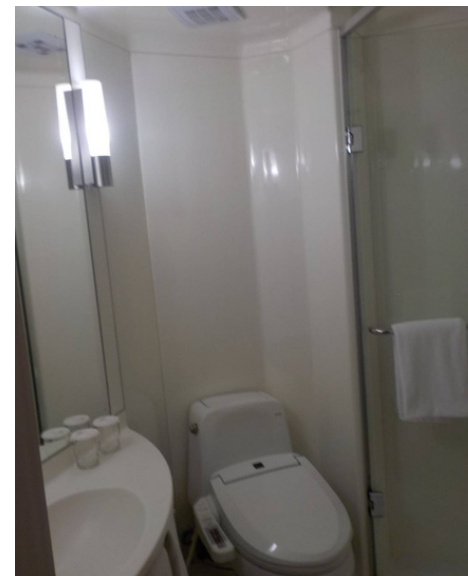
『伝統衣装体験』

チマチョゴリの色や柄には、それぞれ意味が込められており、身分や立場などを表していることがわかりました。日本の着物に比べて動きやすく、自分で着ることができるよう、苦しさもありませんでした。実際に着ることで、韓国の伝統的な文化を身近に感じることができました。



『市場』

韓国の市場では松山の大街道に比べると魚や果物、キムチや海苔などを多く売っており、にぎやかな雰囲気でした。店員さんが声をかけてくれたり、さまざまな食べ物が並んでいたりして、とても活気があると感じました。



『トイレ事情』

韓国では、ホテルや一般家庭でもユニットバスが多く、日本とは違ってトイレットペーパーをトイレに流せないところもあります。日本ではトイレットペーパーをそのまま流すことが一般的なので、このようなトイレの使い方の違いに驚きました。実際に比べてみることで、日本と韓国では生活習慣にも違いがあることがわかりました。



『伝統衣装』

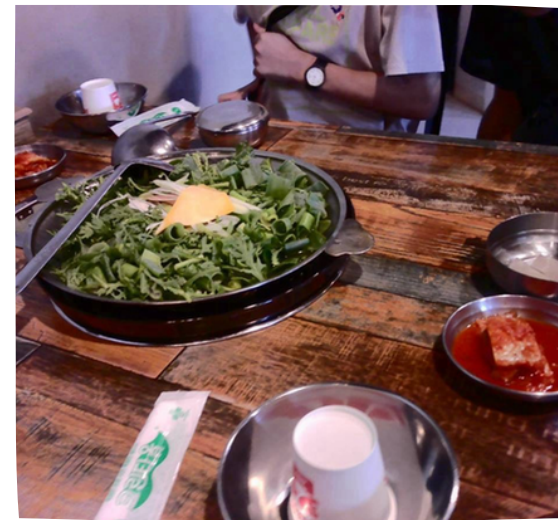


韓国で、ワンビという偉い人の妻が着ていた韓服を体験しました。普段着る服とは違い、華やかなデザインや色合いがとても印象に残りました。実際に着ることで、韓国の伝統文化や歴史を身近に感じることができ、とても貴重な体験になりました。

『韓国の方と最後の時』

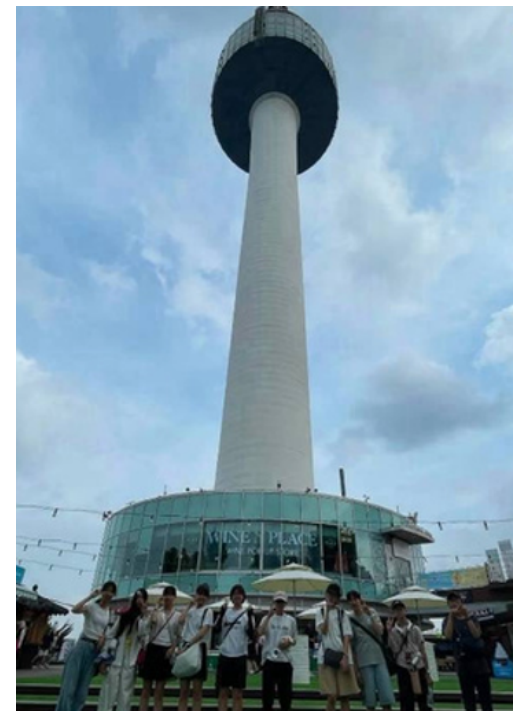


この1週間、私たちが安心して安全な旅をすることができたのは、バスを運転してくださった方のおかげです。毎日安全に運転してくださり、楽しく充実した韓国旅行をすることができましたそして、DMZに行ったあと外が暑くバスの中で涼もうとしたら運転手の方がうちわをくれて心優しい人で嬉しかったです。



『プデチゲ』

今まで韓国でいろいろな料理を食べましたが、野菜をたくさん食べたのは久しぶりでした。新鮮な野菜がたくさん入っていて、普段とは違った食感や味を楽しむことができました。韓国の食文化を感じられてよかったです。



『ソウルタワー』

6目にソウルタワーへ行きました。東京タワーのような雰囲気があり、展望台からソウルの街を一望することができました。韓国の美しい景色を高い場所から見ることができ、とても印象に残る良い思い出になりました。



『ロッテワールド』

ロッテワールドでは、日本の遊園地とは違う韓国ならではの雰囲気を感じました。大きなお城や色鮮やかな建物が特に印象に残りました。実際に訪れたことで、韓国の観光地の特徴や工夫を知り、観光文化について学ぶことができました。



『住環境』

ホームステイでは、韓国のマンションで実際に生活し、日本とは違う住環境を体験しました。高い建物が多く、周りにも同じようなマンションがたくさんあることに驚きました。現地で生活したことで、韓国の人々の暮らし方の違いを知ることができました。



『ソウルタワー』

ソウルタワーを見て、韓国の街がとても広く、高い建物が多いことに驚きました。遠くからでも見えるタワーがソウルの街のシンボルになっていることを知りました。実際に街を見ることで、韓国の発展や都市の大きさを感じることができました。

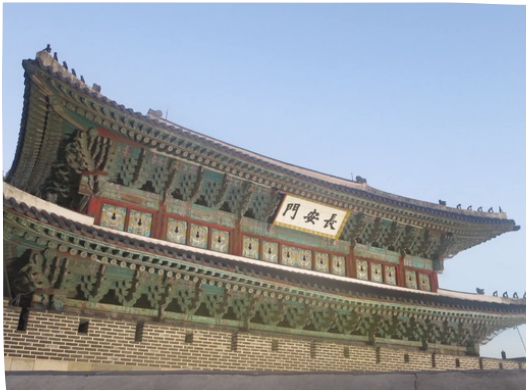


『DMZツアー』

韓国と北朝鮮の国境付近にある川を見て、今も二つの国が分かれていることを実感しました。授業で南北分断について学んでいましたが、実際に国境付近を自分の目で見ること、歴史をより身近に感じ、平和の大切さを考えるきっかけになりました。



『水原華城』



- 水原(スウォン)市にある行宮洞(ヘングンドン)という場所にある水原華城(スウォンファソン)という城の写真の1部です
- ホストファミリーと行きました
- 目に入る景色は全て美しく、写真映えするため、若者に人気です

『素敵なホストファミリー』



- ホームステイ中のホストファミリーとの写真です
- ホストマザーがとても料理上手で、沢山の料理や果物を出してくれました
- みんな仲が良く、とても暖かくて素敵な家族でした
- 団らんでの会話を通して仲を深めることができました

『キムチ冷蔵庫』



- ホストファミリーの家にあるキムチ冷蔵庫の写真です
- とても大きな冷蔵庫が2つありそのうちの1つがキムチ冷蔵庫です
- 上から下まで全てキムチやキムチの材料が入っています
- 普通の冷蔵庫にもキムチがあり、ほぼ毎日キムチを食べるそうです

『DMZ』



- 坡州(파주)(パジュ)エリアにあるDMZ(非武装地帯)の資料館の写真の一つです
- 戦時中の写真から当時の緊張感や苦しさが伝わり、複雑な気持ちになりました
- 戦争の恐ろしさと平和の尊さを改めて感じました



『キンパ作り』

私を家族のように温かく迎えてくれたホストファミリー。最初は会話についていけず不安でいっぱいだったけど、韓国語を教えてもらいながら実際に会話をしました。自分で体験したからこそ、会話ができる楽しさと自信が得られ、体験することの大切さを実感しました。



『ホストファミリー』

分からないことは積極的に質問し、身ぶり手ぶりや表情で伝え合いながら現地の食文化や暮らしをたくさん教わりました。言葉が完璧でなくても「知りたい・伝えたい」という気持ちでホストファミリーと笑顔で交流できました。



『経済発展と平和』

高層ビルやk-popなど、華やかな発展に圧倒されました。だからこそ、その裏にある「休戦」という事実が考えられませんでした。日本のように争いのない国で自由に生きられる幸せを改めて実感する機会になりました。



『実際に体験する大切さ』

言葉の壁を越えた楽しさも、日本との違いに驚いたことも、現地での大切な思い出です。活動を通して韓国や大好きな松山、家族のすばらしさに気づけました。韓国の良さをもっと学び、松山の魅力を周りにたくさん伝えていきたいです。現地で得た貴重な体験を、これからの成長に生かします。最高の思い出をありがとうございました。



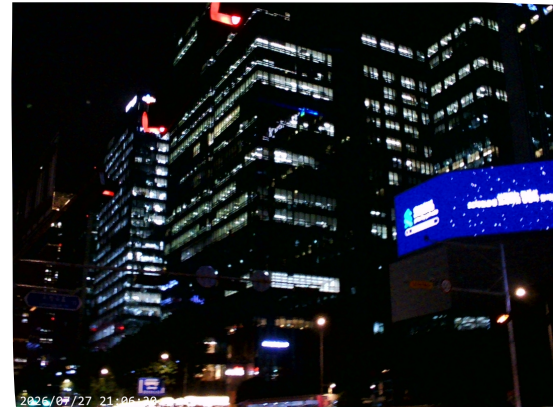
『すごろく』

韓国の伝統的なすごろくで、名前はユンノリと言います。ユンノリとは家族や親戚が集まって楽しむ、日本の「すごろく」に似た伝統的なボードゲームです。私はホームステイで初めて体験しました。ルールは初めてだと少し難しいですが、とても面白く、勝った時はパートナーの子と喜び合いました。



『ソウルの夜景』

ソウルでホテルに帰る途中に撮影した夜景です。韓国で初めて見る高層ビルの夜景に、すごく感動しました。道中、何枚も写真を撮ってしまうほど、心に深く残る景色になりました。



『食事』

ホームステイで食べさせてもらったムルレンミョンという冷麺みたいな食べ物です。日本の冷麺より麺が細くてスープが酸っぱく、暑い日にぴったりで美味しかったです。すっかりお気に入りになりました。



『景福宮』

ソウルを代表する歴史スポット、景福宮の正門である光化門です。今回は中に入ってみることは出来ませんでした。私は歴史が好きなので、次は家族と一緒にぜひ行ってみたいです。





『韓服体験』

昔の人々は衣服の色や形、模様などによって厳格に階級が分かれていたという歴史を知り、とても驚いた。単なる装飾ではなく、一目で身分が判別できる仕組みになっていた点に、当時の文化の深さを感じた。



『伝統楽器体験』

伝統楽器の演奏体験をしたが、両手に持つバチの種類がそれぞれ異なっていることに驚いた。左右で違うバチを使うからこそ生まれる独特のリズムや音色があり、演奏方法の奥深さを知る良い機会になった。



『慶州ワールド』

慶州ワールドは日本の遊園地よりも絶叫マシンのスリルが格段に激しい。特にほぼ垂直に落下するコースターなど、日本の基準を超えるようなスケールの大きさと圧倒的な恐怖度には、海外ならではの衝撃を受けた。



『仏国寺』

仏国寺は日本のお寺と似ているところが多かった。しかし、建物の飾りなど細かい部分は異なっており、独自の美しさがあった。広い敷地にたくさんの大きな建物が並ぶダイナミックな光景も含めて、新鮮な驚きがあった。



『交通』

韓国の車はよくクラクションを鳴らしていて、マナーの違いに驚きました。信号機の渡れる秒数表示や日本であまり見ない道路標識は面白かったし、交通事故が減りそうだなと思ったので、日本でも導入してほしいです。



『図書館』

ショッピングモールに図書館があることに驚きました。行った日はイベントをしていてとても賑やかで、日本での静かなイメージが覆されました。休憩を目的に使っている人が多く、こういう形の図書館もいいなと思いました。



『バス』

韓国を走っているバスは、便が多くて驚きました。キャッシュレス決済が主流で、現金を払えたとしてもお釣りは返ってこないそうです。人が乗り降りしたらすぐドアを閉めていて、日本のように時間通りにする文化はないと知りました。



『学校』

韓国の高校の図書館に日本の漫画が置いてあって、日本の影響力を感じました。パートナーの学校は冬休みが一番長く、3月に入学するそうです。夏休みの宿題はないと聞いて驚きました。塾に通っている人が多いからかもしれません。



『ソウルの街並み』

私たちが見たソウル特別市は、高層ビルの間を多くの車が走る、発展した街でした。ガイドさんから、1950年に勃発した朝鮮戦争の市街戦によって街が大きな被害を受け、そこから奇跡的な復興を遂げたと聞き、さらに驚き改めて街を見ました。



『伝統楽器体験』

見学した民俗芸能「農楽」では、個性的なパフォーマンスがとても面白かったです。伝統的な太鼓「チャンゴ」は、両手をリズムに合わせてとても素早く動かさなければならず、難しかったです。皿回しでは早めにコツをつかむことができ、楽しく体験することができました。



『グランピング』

ホストファミリーと共に、グランピングを楽しみました。特に、バーベキューで食べたサムギョプサルや、キャンプファイヤーが強く印象に残っています。ホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。この頃には、自分が伝えたいことを、お互いどうにか伝えられるようになり、とても楽しくなってきました。



『ホストファミリーとの別れ』

7月27日、ホストファミリーとお別れしました。準備の段階から滞在の最初から最後まで、ホストファミリーにはお世話になりました。いつも私のことを気遣ってくださいました。お別れの時には、感謝と寂しさで胸がいっぱいになりました。精一杯の「カムサハムニダ」を伝えつつもりですが、とても言葉では伝えきれず、もどかしい思いも残りました。



韓国班

7月23日～7月29日



感動したこと

たくさんのアクロバティックな動きをしながら楽器を演奏し、全員が一致団結した姿はとてまかつこよく、強く心を打たれました。実際に楽器を体験した際は、複数のリズムを覚えるのがとても難しかったです。ポナノリ（皿回し）の体験ではやり方を教えて頂き、少しずつできるようになっていきました。日本ではあまり見かけない演奏だったため、日韓の文化の違いを改めて認識することができました。



私たちの班の推し

私たちの推しは「おかわり無料文化」です。飲食店では、キムチ、野菜などがおかわり無料でたくさん食べることができます。店員さんはフレンドリーな方が多く、マシッソヨ（おいしい）と言うとても喜んでくれて、私たちもコミュニケーションを楽しむことができました。実際に現地で韓国語を使ってみることで、言葉が伝わる嬉しさや上達を実感することができました。また、韓国の方の温かい人柄や「おもてなしの心」を直接感じることができて、とても良い経験になりました。



驚いたこと

韓国の横断歩道には、日本では見られない機能がありました。一つ目は、信号待ちの場所に設置された「クナルマク」と呼ばれる大型パラソルです。日よけや雨よけ、熱中症対策として全国に普及しています。二つ目は、信号機と連動して足元が赤や緑に光るLEDライトで、事故防止や歩きスマホ対策に役立ちます。三つ目は信号のカウントダウン表示で、赤信号に変わるまでの時間が一目で分かるようになっていました。韓国では横断歩道以外にも、人々が暮らしやすくなるようさまざまな工夫がされていることが分かりました。



松山市立東中学校 教頭 藤野 由起子

本プログラムを通して、派遣生たちは文化や言葉の壁に戸惑いながらも、笑顔や挨拶が国や言語を超えて人と人との心を結ぶ力をもつことを実感しました。特に、2泊3日のホームステイでは、ホストファミリーの温かな思いやりに支えられながら交流を深め、韓国語は「学ぶ言葉」から「伝え合う言葉」へと変わっていきました。引率者である私たちも、図書館視察や学校訪問を通して韓国の教育や地域の取組に触れ、多くの学びを得ました。

また、全員で訪れた南北の非武装地帯の資料館では、分断の歴史や現在も続く緊張関係について学ぶとともに、平和の実現に向けて力を尽くしてきた人々や国々の存在にも触れました。平和の大切さと、その実現のために行動することの尊さを考える貴重な機会となりました。

行く先々で出会った韓国の方々の優しい笑顔と豊かなホスピタリティは、参加者一人ひとりの心に深く刻まれています。この経験を糧に、派遣生たちが人と人をつなぐ懸け橋となり、それぞれの未来を笑顔で歩いていくことを心から願っています。



松山市立北中学校 教諭 中原 直子

「もっと知りたい、もっと感じたい。」平澤市で過ごす生徒たちから、そんな思いが伝わってくる一週間でした。初めての景色に目を輝かせ、人と出会い、言葉や文化の違いに戸惑いながらも、笑顔で一步を踏み出す。その一つ一つを重ねるたびに、生徒たちの世界が広がっていくのを感じました。引率者としてその時間を支える一方で、私自身も「韓国を知っている」という思い込みを何度も覆されました。一つの見方だけでは、国も文化も人も分からない。生徒たちと一緒にだったからこそ見えた韓国もありました。もっと知りたい、もっと関わりたい。そう思わせてくれたこの一週間と、私たちに新しい世界を見せてくれたすべての出会いに感謝しています。